動物学雑誌 2003. 38(2)

新疆におけるセキレイ属２亜種の分類について問題提起

侯鬧新[1]・蒋衛[2]
1 西北民族学院動物科学系
2 新疆ウイグル自治区地方病防治研究所
訳 福井和二

摘要　新疆のセキレイ属 (Motacilla) の亜種について整理研究をおこなった．今日までの文献において認められているツメナガセキレイ (*M. flava*) とキセキレイ (*M. cinerea*) の亜種について有意義な議論がなされてきたが，ここにやや異なった分類の視点を提起する．

筆者が新疆のセキレイ属 (Motacilla) の標本を整理鑑定中，かつて国内の文献においてツメナガセキレイ (*M. flava*) とキセキレイ (*M. cinerea*) の亜種の識別についてなを議論のあるところ，ウルムチ，伊犁，塔城等の現地調査と採集された標本をあわせて検討し，異なる分類についての意見を提出し，多くの意見を求め，この問題を整理したい．

1．ツメナガセキレイ *Motacilla flava* Linnaeus

斎桑亜種 *M. f. zaissanensis* Poljiakov，1911

採集地；烏蘇 (V 18)，額敏 (V 31～VI 5)．

識別特徴；雄成鳥の頭頂は灰色，やや濃く，少しずつ異なった色合いのものがあるが，ほとんどオリーブ色の羽を見ることはない．幾つかの標本に頭頂の黒に富んでいるものがあり，額の部分が著しい．上体の他の部分はオリーブ緑色．眉斑はほとんどないが，幾つかの白色羽毛を見ることがある．頬部は白色．耳羽は黒灰色あるいは黒色に近い．喉から下腹部，下尾筒まで黄色．風切と雨覆は黒褐色．初列風切の外側羽縁に非常に細い淡色部分がある．次列風切の羽縁は明らかに広い．大雨覆と中雨覆はやや広い淡色の羽縁がある．尾羽は黒褐色で，両外側の尾羽は白色，羽軸に近い部分がわずかに褐色を帯びる．第３対の尾羽がわずかに白いものがある．

雌成鳥の頭頂は灰色ではなく，オリーブ褐色，背部はオリーブ緑色，下体は白色で腹部にぼかしたような淡黄色．嘴と脚は黒色．各部位の測定を表１に示す．

表１ *M. f. zaissanensis* の各部位測定値

性別	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
5♂♂	17.5	—	11.7	82.5	73.8	23.6
	(16.4-18.8)	—	(11.6-12.5)	(81.0-85.3)	(72.0-75.0)	(21.5-24.0)

鄭宝賚[1]，銭燕文等[2]が新疆北部の青河，福海，哈巴河，塔城等で採集し鑑定したツメナガセキレイ *M. f. beema* について新疆の鳥類亜種として報告した．鄭作新 1976 年第２版≪中国鳥類分布名録≫に収録されているが，新疆北部での繁殖には懐疑的である．同様に≪中国動物誌－鳥綱 (第八巻)≫[3]の文中に新疆で繁殖となっているが，分布図には繁殖域として取り扱われていない矛盾がある．S. Baker[4]，Π optehko[5]の記述によると *M. f. beema* は非常に広い白色の眉斑があり，かつ，喉の部分が白色である２点が明らかに，筆者の標本と一致しない．Π optehko[5]は同時に *M. f. zaissanensis* の下頬部の白色が小さいとしている．*M. f. beema* の国外にお

ける主要な繁殖地域はボルガ河流域から東，トムスク，エニセイ河上流部，北緯49度を南限とする地域とされており[6]，中国国内では繁殖は見られず，旅鳥としてみられるのみである．

M. f. zaissanensis は外国で，わずかにカザフスタンのザイサン盆地から額尔齊斯河上流と薩彦嶺以西のアルタイ山麓[6]は勿論，塔城盆地を含む地域にのみ見られ，当然，中国の塔城からアルタイ山麓はこの分布域に接続している．

M. f. beema が中国で繁殖していないとした後，動物地理分布の上からも，形態鑑別特徴の上からも *M. f. zaissanensis* だとしても不思議ではなく，疑問の余地はない．

額尔齊斯河流域の調査で *M. f. zaissanensis* は，河川敷の草原から，水域外の荒れた草原の環境に普通に見かける鳥で，別に烏蘇の甘家湖自然保護区内でも1羽が採集され，新疆北部のウルムチで見られており，5月の末と6月の初めに2羽の雌が捕獲され，明らかな抱卵斑が見られたので，当地で繁殖しているのは確実と思われる．

2．キセキレイ *Motacilla cinerea* Tunstall

新疆亜種 M. c. melanope Pallas，1776

採集地；霍城(Ⅶ30～Ⅷ21)，新源(Ⅵ7)，米泉(Ⅴ3)．

識別特徴；雄成鳥の上体はおおむね灰色，腰，上尾筒は帯緑黄色，眉斑白色，翼は黒褐色，次列風切羽の外縁に白い縁取りがあり，基の部分は白色，尾羽の両外側1対の羽は白色，次の1対は大部分が白色で，僅かに外翊だけが薄墨色，他の尾羽は黒色．頬と喉は黒色，白色の頬線がある．胸から下は美しい黄色である．

雌成鳥は基本的に雄に似ているが，頬と喉が白色で，胸から下の黄色も雄のように輝きがない．嘴は黒褐色，脚は肉褐色．

各部位の測定は表2に示す．

表2 *M. c. melanope* Pallas の各部位測定値

性別	体重	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
3♂♂	－	181.5	11.9	82.8	91.8	19.3
		(180－183)	(11.0－12.5)	(81.0－85.0)	(86.5－95.0)	(19.0－20.0)
2♀♀	－	185，186	13.0，13.0	79.0，81.1	91.0，95.0	19.8，22.0

鄭宝賚[1]と銭燕文[2]はともに新疆に分布しているキセキレイは *M. c. melanope* としたが，鄭作新[7]はかえって，*M. c. robusta* とし，伊犁谷地域に限られて孤立的に繁殖しているとした．この指摘はその後多くの文献によって認められている．≪中国動物誌一鳥綱(第八巻)≫[3]と≪中国鳥類誌≫[8]等の権威ある書籍でも *M. c. robusta* として扱われている．

Π optehko[5]の≪ソ連鳥類誌≫によると，*M. c. melanope* は旧ソ連域内のかなり広い地域に分布し，西はウラル，北はエニセイ，南は旧ソ連とイラン国境附近とし，東は天山山脈と中ソ国境の塔尔巴哈台，アルタイ山脈に至る．しかし，別の亜種 *M. c. robusta* の主な分布は，カラフトからラオホーツク海沿岸地域で，Vaurie[6]によると，さらに朝鮮半島，日本と，我が国東北，華北など，この亜種の分布域に接続し，最も西では甘粛省の隴山南部一帯[9]におよぶ．地理的隔離が亜種を作る主要な要因の一つであることは周知のことであり，想像しがたいことだが，*M. c. robustea* が遠く離れて連続的に分布しているにもかかわらず，別の一亜種である *M. c. melanope* が分布域辺縁で孤立した繁殖域を形成し，まして伊犁谷から西に向かって特殊な地理的障壁が無く，次第に開けた地域が続くというのに．Π optehko[5]によると，この両亜種の区別

は，*M. c. melanope* の体色がやや暗色で，雄は喉の部分の黒色が濃い．体型もやや大きく，筆者は最近新疆から採取した標本と甘粛隴南の *M. c. robustea* を比較して前者が大きいことが容易に見て取れ，雄の喉の黒色が著しく濃かった．Vauric[6] は *M. c. melanope* が基亜種である *M. c. cinerea* の同種異名であるとし，尾長92～103mmであることを指摘している．しかし，*M. c. robustea* の尾長は80～96mmである．同様に，筆者も分類学と動物地理学的に考えて，鄭宝賚[1]と銭燕文[3]の視点に同意する．新疆のキセキレイは *M. c. melanope* の分布が東へ伸びた結果，最も東では天山山脈の哈密盆地一帯に達した．これを基亜種とする人もいるが，しかし，*M. c. robustea* とすることはできない．

平原，低山地域でよく見られる鳥で，胃内容分析によると鞘翅目昆虫の幼虫と成虫が主であった．

新疆ウイグル自治区内の広い範囲に分布する夏鳥で繁殖をしている，鄭宝賚[3]が列挙しているのに反してわずかに伊犁谷にのみ繁殖しており，筆者は塔城で調査したが，本種を見ることはできなかった．